

異 動 を 経 験 し て

鹿児島県言語聴覚士会 独立行政法人 吉永 綾乃
国立病院機構 鹿児島医療センター

初めまして。私は、鹿児島医療センターにて言語聴覚士（以下ST）として勤務しております吉永綾乃と申します。鹿児島医療センターに異動して1年が過ぎました。私は学生の頃から常々、小児分野に関わるSTになりたいと思っていました。その為、卒業後は加治木にある南九州病院に入職しました。入職当時は、ST以外のリハビリスタッフは九州本部での採用試験を受け、九州管内を異動することが当たり前でしたが、STだけはまだ各病院での採用という時代でした。しかしながら、採用時からいずれはSTも転勤制度が始まるかもしれないということは聞かされてはいたのですが、他人事のように感じながら11年間勤務していました。

南九州病院では主に市立病院等のICUを退院されたばかりの重度心身障害児や発達遅滞がある子ども達と神経難病を患った成人の方の2本柱を中心とした摂食嚥下機能訓練、言語発達訓練、言語訓練に従事させてもらっていました。その中でも8割近くは子ども達がメインとなっており、成人の患者様にはあまり携っていませんでした。毎年、理学療法士、作業療法士のスタッフが入れ替わる中、2～3年程前よりSTもついに九州管内の異動が始まりました。それでもまだ私には関係ないだろうと思っていましたが、ある日、国立病院機構のSTの専門職よりメールが届き、2021年4月より南九州病院に言語聴覚士の主任ポストができるとのことで、これを機に、鹿児島医療センターに異動をしてもらえないだろうかと思打診がありました。新しい環境、新しい分野に飛び込む勇気ももてず、お断りしようとも考えていましたが、この機会を逃

すと新しいことへのチャレンジはできないのではと家族から背中を押してもらい、当時の理学療法士長とも相談し、協議を重ねた結果、勉強にもなるとし、サポートもして下さるとのことです承らせていただくことになりました。

2021年4月1日、鹿児島医療センターに初出勤。急性期病院ということもあり病院の空気感も違い、スタッフも若手が多く、役職者としての責任の重さを感じ、頭が真っ白になったのを今でも思い出します。転勤してからも摂食機能訓練、言語訓練に従事させてもらうということに変わりなかったのですが、対象とさせていただく患者様は、頭頸部の癌や急性期の脳卒中を罹患された患者様であり、成人の方への摂食機能訓練、言語訓練は初めての経験でした。正直な話、学生の頃から異動になるまで、苦手意識を持っていた対象疾患であったこともあり、全くといっていいほど勉強してこなかった分野で、毎日頭がパニック状態でした。従事内容だけみると同じ業務ではあるように思いますが、対象患者様が違えばアプローチの方法は大きく異なります。その日その日をやりこなすことがいっぱい、いっぱい、興味がある小児分野には全く関われなくなった、心から異動したくて異動したわけではないのに・・・とマイナスなことばかり感じていました。しかし、1年が経過し、ようやくデメリットだけではなく異動のメリットにも気が付けたように思います。そのメリットとは 新しい分野に興味を持てるようになったこと、新しい分野の知識の幅が少し広がったことです。新しいことに一歩を踏み出す時は大きな勇気も必要になります。

今考えると、挑戦する前から勝手に自分で壁を作り、苦手意識を強めていたのだと思います。異動というきっかけがなければ私は今も変わらず小児分野を重点とした勉強しかしていなかったと思います。でも、きっかけをいただいたからこそ新しい分野に視野を広げることができたと思います。まだまだ上司、同僚には迷惑をかけっぱなしの毎日ではありますが、せっかく頂いた機会を大切に、責任をもって少しでも早く、頼りにされる上司にもなれるように日々を過ごさなければいけないと思います。